

World's Window

さあ、窓を開けて世界をのぞいてみようよ



オーストラリアビクトリア州のスキー場

世界の国々や文化を紹介する「ワールズ・ウィンドウ」！ 案内役は、国際交流員キャサリン・タットネルさんとアレックス・ロザウスキさんです。

Vol.87 オーストラリア 降雪とスキー

皆さんこんにちは！キャサリンです。わたしが小学校で子どもたちに「私が生まれた町では雪が降らないけど、オーストラリアには雪が降るんですよ！」と言うと、いつも子どもたちは信じてくれません。友人たちもオーストラリアに雪が降ることにたいいてい驚きます。そこで今回は少しだけオーストラリアの雪について書きたいと思います。

オーストラリアと聞くと、皆さんは何を想像しますか？大変暑くて乾燥している砂漠ですか？それともグレート・バリア・リーフの美しい魚や珊瑚など熱帯の海の生き物ですか？多分雪景色をイメージする人はいませんよね！

オーストラリアは世界で最も平坦な大陸で40%が砂丘です。オーストラリアは暑い国のイメージがありますが、東南オーストラリアは日本と同じ温帯気候です。シドニーからメルボルンまではグレート・デバイディング・レンジと言う山々が連なるアルプスには雪が降ります。

アルプスの降雪量は青森より少なく、たいいていスキー場の積雪は50cmから多くても1.5mくらいです。わたしは春（日本では秋の気候）の降り始めに、15cmの積雪で滑ったことがあります。天候は予測できないので年によって降雪量は大きく異なります。特に干ばつであまり雪が降らない時は大変です。オーストラリアのクリスマスは夏ですが去年は珍しくアルプスに雪が降りました！

アルプスでは「スノーガム」というねじれたユーカリの木や草原が特徴的です。またアルプスにはさまざまな野生動物が生息しています。カンガルーや小さいクマのように見えるウォンバットなどがこの地域に生息しています。

オーストラリアにはスキー場が14か所あり、スキーやスノーボードが楽しめます。クロスカントリースキーも人気があります。スキーの発祥は1861年黄金狂時代（ゴールドラッシュの頃）、ノルウェー人の鉱山労働者がオーストラリアのアルプスで「キアンドラ」という世界初のスキークラブを設立して、そこからスキーが始まりました。



・約150年前の「キアンドラ・スキークラブ」、写真はレースで順番を待つ女性の選手たち。当時は高貴なスポーツで、全員当時の正装で参加している。

オーストラリアのアルプスは温暖な気候ですので特に寒くありません。冬の平均最高気温は0度から2度くらいです。昼は温かくて雪の表面が解け、夜寒くなると解けた雪がふたたび凍るのでスキー場のコースは固く水っぽくなる傾向があります。

降雪量は年によって大きく異なりますが、雪の少ないオーストラリアのスキー場では人工降雪機が欠かせません。日中の営業が終わり、ゲレンデを整備する時には人工降雪機がフルに稼働します。去年の7月の第1週目にはすべてのオーストラリアのスキー場で100万mの雪が作られました。「マウント・ホッサム」というスキー場では12万410mの人工雪（10トトラックで1万2024台分）の人工雪が作られました。しかし、人工降雪機は値段が高だけでなく、水や電気も大変多く使います。しかも、リフトやゲレンデ整備機の部品などをヨーロッパやアメリカから調達するのでさらに莫大な費用がかかります。またスキーシーズンは16週間だけです。そうゆう理由からオーストラリアのスキー場は世界で1番値段が高といわれ、平均の1日リフト券は9,000円以上もします。

オーストラリアの雪は北半球にくらべ雪質があまり良くないので、最近オーストラリア人は日本のスキー場に好んでよく行きます。特に北海道のニセコは大人気です。2007年～2008年のスキーシーズンに日本を旅行したオーストラリア人は4万人もいました。2004年～2005年の3倍の人数です。パウダースノーや長いゲレンデ、日本のユニークな文化や安い航空券はもちろんです。オーストラリアと日本の時差が2時間しかないのも、日本はとても人気の場所なのです。



○オーストラリアアルプスに生息する生き物たち
・上左/スノーガム (Snowgum) と呼ばれるねじれたユーカリの樹
・上右/クマに似ているがネズミ科の一種であるウォンバット
・下/雪の中のカンガルーを見れるのはこのアルプスだけ